

分散型の都市構造におけるまちの魅力とまちづくり要素について

福島工業高等専門学校 学生会員○佐藤 優花
正会員 齊藤 充弘

1. はじめに

いわき市は広域合併都市のため、小規模な市街地が分散している。そのため、魅力となる要素も分散していると感じる。今後のまちづくりにおいては、現状広域にわたって分散する要素どうしの関係性を構築していかななくてはならない。しかしながら、日常生活の実態は市街地を形成する地区によって異なり、そこで育まれるイメージや魅力も多様で異なっている。また、観光客をはじめとする市外の人にまちの魅力を理解してもらうためには、市民がその魅力を理解し、誇りを持てるようでなくてはならない。現状、どのような場所に人が集まり、魅力を感じているのかを明確にしたうえで、いわき市としての魅力を発信することが必要である。

本研究は、いわき市を対象に地区ごとにまちの魅力を明らかにすることを目的とする。地区ごとにまちの魅力となる要素を整理したうえで、それに対する住民の評価を明らかにする。そのうえで、地区ごとの関係性を分析し、いわき市としてのまちの魅力とまちづくり要素を明らかにしていく。

2. 研究の対象と方法

いわき市は、1966（昭和41）年に14市町村の広域合併により誕生した。合併後半世紀以上が経過するものの、現在でも旧市町村に基づく地区を単位として物事を考える住民が多く、祭りなどのイベント開催においても同じような催しをそれぞれの地区ごとに開催している実態がある。公共施設の配置についても、中山間地域に位置づけられる地区においては統合・再編が進んできているものの、それ以外の地域においてはスポーツや文化施設をはじめ、隣接する市街地地域において同様の施設を維持している。また、観光施設も太平洋沿岸から日本三大古湯として有名な湯本温泉、さらには阿武隈高地に至るまで多様な施設が点在している。しかしながら、訪れる

観光客の多くはワンストップ型の滞在が多く、市内に分布する多様な観光施設を回遊する行動に乏しいのが現状である。

このようないわき市の実態を踏まえて、本研究ではその点在する多様な施設を分類し、整理したうえで、それに対する住民の評価を明らかにすることを通して、いわき市全体としてのまちの魅力と将来にむけてのまちづくり要素を追究しようとするところに意義がある。

3. 地区の特性とまちづくり要素の分布

(1) 地区の位置づけと実態

いわき市の都市計画マスタープラン¹⁾より、14地区の位置づけを整理したものが表1である。これを見ると、1つの都心拠点を平地区に位置づけたうえでその東方に位置する沿岸の小名浜、北部の四倉、南部の勿来²⁾の3つを広域拠点に位置づけている。南北に通る常磐線沿線の常磐と内郷を地区拠点とし、中山間地域に位置づけられる地区は地域生活拠点となっている。この地区間を結ぶ交通体系としては、南北は鉄道と高速道路が通る一方、東西の地区を結ぶ交通体系は平地区から中山間地域に向けては一部高速道路や鉄道が通るものの、特に平と小名浜の両拠点間は県道平小名浜線をはじめ複数の幹線道路が通るのみである。

表1 都市計画マスタープランにみる地区の位置づけ

位置づけ	地区
都心拠点	平
広域拠点	小名浜、勿来、四倉
地区拠点	常磐、内郷
地域生活拠点	好間、久之浜・大久、小川、川前、三和、遠野、田人

(2) まちづくり要素の分布

同じく都市計画マスタープラン¹⁾より、まちづくり要素となりうるものを分類ごとに抽出した。その結果、「歴史遺産・産業遺構」が26、「海の観光施設」が3、「山の観光施設」が7、「温泉関連施設」が4、「歴史・文化施設」が8、「都市型観光施設」が5、「海水浴場」が4、「その他観光施設」を2と抽出・整理す

キーワード：広域合併都市、分散型都市構造、まちの魅力、まちづくり要素、アンケート調査

連絡先：福島工業高等専門学校都市システム工学科 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 TEL:0246-46-0830

ることができた。これらの施設等を行政が位置づけるまちづくり要素として設定する。また、観光施設については市が別途作成・公表する資料²⁾より、再設定した。

（3）アンケート調査票の作成

分類・整理することができたまちづくり要素についての地域住民の評価を明らかにするために、アンケート調査票を作成した。その概要を表2に示す。ここで、まちづくり要素については住民の日常生活行動より、買い物、食事、遊び(観光)の3つに分類した。また、いわき市全体の行くところ、利用するところとして、自然、歴史、観光の3つに分類し、前述のまちづくり要素調査^{1) 2)}結果より、それぞれ10, 6, 12の要素を選択肢として設定した。

表2 アンケート調査項目

調査項目(12問, 19項目)	
地区市	・良いところ ・良くないところ・不便なところ ・主に行くところ(買い物, 食事, 遊び, 観光) ・住みやすさ
市全体	・良いところ ・主に行くところ, 利用するところ (自然, 歴史, 観光) ・不足しているもの
その他	・いわき市に住み続けたいか ・住み続けたい町の条件 ・所属(性別, 年齢, 世帯構成, 住居地区)

4. 地域住民の行動・評価にみるまちづくり要素

（1）買い物について

広域拠点に位置する勿来と四倉の両地区の中学生、高校生の主な買い物先をみたものが表3である。これより、勿来地区では中学生は58.0%が地区内に出かけているものの、高校生の地区内は8.2%に留まり、小名浜やその他（ともに31.8%）や平（28.2%）の割合のほうが高くなっている。一方、四倉においては、地区内という回答は中学27.5%、高校9.1%に留まり、平（56.3%、69.1%）の割合がともに最も高くなっている。同じ広域拠点でも地区や年代により買い物先が異なる実態をみることもできる。

表3 主な買い物先

		地区内	平	小名浜	その他	合計
勿来	中学	58.0	10.1	20.7	11.2	100
	高校	8.2	28.2	31.8	31.8	100
四倉	中学	27.5	56.3	10.6	5.6	100
	高校	9.1	69.1	8.2	13.6	100

(%)

表4 主に遊びに行くところ

		地区内	平	小名浜	その他	合計
勿来	中学	13.6	8.8	49.8	27.8	100
	高校	3.3	36.7	33.3	26.7	100
四倉	中学	5.7	46.6	21.3	26.4	100
	高校	0.8	65.3	11.6	22.3	100

(%)

（2）遊びについて

買い物と同様に遊びについて表4にみると、中学、高校ともに地区内の割合が低くなっている。勿来の中学では小名浜（49.8%）の割合が高く、高校では平（36.7%）と小名浜（33.3%）に割合が高い。一方、四倉では平（46.6%、65.3%）がともに最も割合が高い。ここでも地区や年代により異なる実態をみることができる。

（3）観光について

同じくよく行く・利用する観光施設（複数回答）についてみたものが、図1である。ここでは「スパリゾートハワイアンズ」の回答割合が勿来の中学35.6%、同高校29.5%、四倉の中学31.5%、同高校28.7%とともに最も高い。次いで「アクアマリンふくしま」（対象平均24.7%）、「ら・ら・ミュウ」（同12.9%）とやはり同様の利用傾向にある。

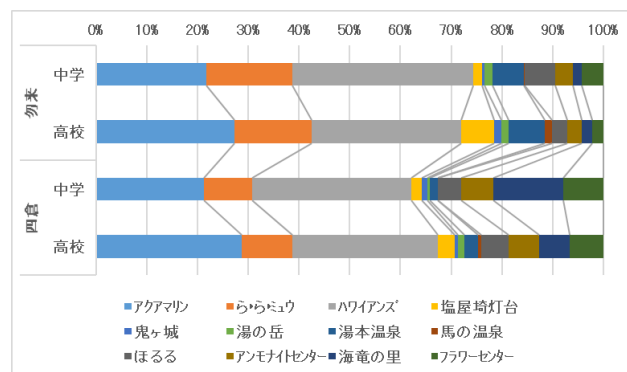


図1 よく行く・利用する施設（観光）

5. おわりに

本研究により、いわき市内に広域に分布するまちづくり要素とそれに対する地区ごとの住民の評価を明らかにすることができた。今後は、その関係性をいかに構築していくかを検討する必要がある。

参考文献

- 1) いわき市, 第二次いわき市都市計画マスタープラン, 2019年10月
- 2) いわき市観光まちづくりビューロ, いわき市ルートマップ, 2019年